

大学コンソーシアム大阪 中期計画ロードマップ(2017～2021年度)

課題	達成目標・指標	取組内容	2017	2018	2019	2020	2021
1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・高大の連携・接続の課題を継続的に検討する。 ⇒フォーラムを年1回開催 ・プラットフォーム形成大学にかかる情報の一元的な発信 ⇒プラットフォーム形成大学からWEBシステムを通じて適宜情報を収集し、ホームページで発信する。 ⇒各教育委員会を通じて大阪府下の全高校に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜高大連携・接続の検討＞ 高大連携・接続にかかる課題をテーマとして「フォーラム」を継続的に開催する。 	フォーラムの開催	フォーラムの開催	フォーラムの開催	フォーラムの開催	フォーラムの開催
		<ul style="list-style-type: none"> ＜情報発信＞ オープンキャンパスや見学会の日程等を一元管理し、ホームページで情報発信する。 	掲載内容の検討	情報発信内容の見直し	情報発信	情報発信	検証⇒改善 情報発信
2 単位互換プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・単位互換科目をより多くの学生が受講できる戦略的な環境を整備する。 ⇒前年の出願者数の10%増加を目指す。 ・学生のニーズに合った新たなプログラム科目の実施 ⇒プラットフォーム形成大学間で独自開発した単位互換科目を2科目以上開講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ＜単位互換の充実＞ ・単位互換科目を一般教養科目や卒業単位として認められるよう、全プラットフォーム形成大学に働きかける。 ・近隣大学間での単位互換を推進するよう、検討・調整を図る。 		<ul style="list-style-type: none"> ・単位互換科目の改善案の検討 ・運用方法の見直し ⇒全大学に募る 	実施	実施	検証⇒改善 実施
		<ul style="list-style-type: none"> ＜プログラムの充実＞ ・低学年の学生が交流し合えるプログラムを企画・実施する。 ・学生のニーズに合った特徴的なプログラムを開発する。 ・各大学の寄附講座を単位互換科目として提供していただくよう調整を行う。 			新プログラムの検討	実施	検証⇒改善 実施
3 インターンシップの更なる充実と独自プログラムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・参加学生の就業意識と企業に対する関心を高め、地元に着定させる。 ⇒インターンシップ先の受入れ10%増(受入企業・団体数) ⇒専門員の配置:1名 ・在阪の企業や官公庁等とのインターンシップを拡充することで、有為なプログラムを充実させる。 ⇒プロジェクト型インターンシップを毎年度1つ以上実施する。 ⇒プラットフォーム形成大学からプロジェクト型インターンシップへの参画教職員数:2名 	<ul style="list-style-type: none"> ＜就業体験型インターンシップ＞ ・産業界とのコネクションの強化、各種団体や中小企業・ベンチャー企業などの特長ある受入先とのインターンシップの拡大、対象学生の学年の引き下げの検討、海外インターンシップ実施の検討などを行う。 ・事務局に受入先の開拓やコーディネートなどのできる専門員の配置を検討する。 	インターンシップ先の拡大の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・経済団体と連携し受け入れ企業を拡大 ・専門員の配置の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象学年の引き下げ等、拡充策の検討 	実施	検証⇒改善 実施
		<ul style="list-style-type: none"> ＜プロジェクト型インターンシップ＞ ・自治体や産業界などと連携して既存プログラムの再編・新規企画の立案を検討する。 ・プラットフォーム形成大学における教職員の参画の可能性について検討する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・既存プログラムの再編 	プラットフォーム形成大学において、協力可能な教職員を調整・推挙	実施	検証⇒改善 実施

大学コンソーシアム大阪 中期計画ロードマップ(2017～2021年度)

課題	達成目標・指標	取組内容	2017	2018	2019	2020	2021
4 グローバル化に対応できる学生や教職員を目指すための機会の提供	<p>・グローバルに活躍できる学生やそれを支える教職員の学びの場として更なる機能の充実を図る。 <他国・他地域との交流> ⇒高等教育会議(シンポジウム)の開催(2年に1回)</p> <p><グローバル人材育成事業> ⇒単位互換科目としてのプログラムの開発と単位付与大学の選定を行う。 ⇒作成したリーフレットを全てのプラットフォーム形成大学へ配布する(毎年1回)。 ⇒プラットフォーム形成大学の10%の大学が参加</p>	<p><他国・他地域との交流> ・台湾財団法人高等教育国際合作基金会との交流を継続し、高等教育会議(シンポジウム)を開催する。 ・学生交流について、プラットフォーム形成大学のニーズ調査や課題を検討する。 ・海外からの留学生受け入れのノウハウ等を学ぶ機会として職員交流を行う。</p>	<p>・台湾とのシンポジウム開催(台北)、職員交流の実施</p>	<p>・検証・改善 ・学生交流のニーズ調査</p>	<p>・台湾とのシンポジウム開催(大阪) ・学生交流の企画・検討</p>	<p>・検証・改善</p>	<p>・台湾とのシンポジウム開催(台北)、職員交流の実施 ・実施・検証</p>
		<p><グローバル人材育成事業> ・グローバル人材育成講座、国際学生・留学生の国際交流イベントを継続実施する。 ・上記講座の単位互換科目化を目指し、プラットフォーム形成大学間で検討を行い、案を作成する。 ・プラットフォーム形成大学の学生や教職員に広く周知するため、リーフレットを作成し、配布する。</p>	<p>・講座、国際交流イベントの実施</p>	<p>・講座、国際交流イベントの実施</p>	<p>大学間での単位互換科目化に向けた検討</p>	<p>単位付与大学選出</p>	<p>実施⇒検証・改善 検証⇒改善</p>
5 学生主体の地域連携促進による大阪の活性化	<p>・本プラットフォーム独自の連携事業を確立し、地域連携を推進する。 <地方自治体からの受託事業> ⇒大阪市や大阪府(府下自治体含む)等の受託事業先を開拓する。(訪問自治体数:3件)</p> <p><地域連携事業> ⇒「地域連携 学生フォーラムin大阪」の参加大学数:20大学以上(プラットフォーム形成大学の50%) ⇒自治体と共同事業に関する意見交換の場を設定する。 ⇒地域連携データベースの改修の具体化</p>	<p><地方自治体からの受託事業> ・プラットフォーム形成大学のメリットになることを判断基準とし、受託の可否を決める。 ・これまでの受託事業での経験を活かし、自治体や産業界にアピールすることにより、更なる受託事業を開拓する。</p>		<p>自治体・産業界との具体的連携の検討</p>	<p>PR資料・WEBページの作成</p>	<p>PR資料の配布・WEB開示</p>	<p>検証⇒改善</p>
		<p><地域連携事業> ・「地域連携 学生フォーラムin大阪」がより一層学生主体の企画・運営の取り組みとなるよう、環境整備を行う。また、自治体や産業界に積極的にPRし、新たな地域連携創出の機会を提供する。 ・大学や自治体の交流を主とした「地域連携情報交換会」を開催する。 ・自治体と連携強化を図るためのニーズ調査や都会間との連携を通じて、地域連携のためのコーディネート機能を強化する。 ・既存の地域連携データベースを自治体のニーズに対応できるように再構築する。</p>	<p>フォーラムの継続開催</p>	<p>地域連携情報交換会の開催内容検討 自治体への大学に対するニーズ調査実施</p>	<p>・地域連携情報交換会開催 ・担当窓口の整理 自治体ニーズのデータベース構築にかかる検討</p>	<p>内容の見直し 構築・運用</p>	<p>検証⇒改善 検証⇒改善</p>

大学コンソーシアム大阪 中期計画ロードマップ(2017～2021年度)

課題	達成目標・指標	取組内容	2017	2018	2019	2020	2021
6 学生ボランティア事業の充実	<p>・学生ボランティアの育成とゴールデン・スポーツイヤーズ等における学生ボランティア事業を充実させる。</p> <p><国際イベントへの学生参加の検討> ⇒学生ボランティアの派遣に関する本プラットフォームとしての方針・企画案の策定及び実施</p> <p><観光・集客に係る学生参加の検討> ⇒観光・集客や子ども支援にかかる学生参加の企画案の策定</p>	<p><国際イベントへの学生参加の検討> ・ゴールデン・スポーツイヤーズ(2019-2021)による外国人来訪の増大に伴い、学生による通訳やイベントサポートなどのボランティアの派遣に関し、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。 ・大阪国際万博(2025年度)誘致にあたり、本プラットフォームとしての参画の可能性について検討する。</p>		<p>自治体・産業界との具</p> <p>全大学の国連アカデミック・インパクトへの参加検討</p>	<p>大阪万博への参画に向けた検討</p>	<p>学生募集・実施</p>	<p>検証⇒改善</p>
		<p><観光・集客に係る学生参加の検討> ・自治体からのニーズに基づき、観光・交流にかかる事業企画などについて、本プラットフォームとしての参画方法を企画・立案する。</p>		<p>自治体への大学に対するニーズ調査実施</p>	<p>自治体との具体的連携の検討</p>	<p>企画・立案</p>	<p>検証⇒改善</p>
7 社会との多様な接点の創出によるアクティブ・ラーニングの充実	<p>・産業界や自治体と学生との協働の機会をコーディネートする。 <学生による企画・運営事業の創出> ⇒アクティブ・ラーニングの先行大学を調査し、プラットフォーム共通のプログラムを企画・実施する。</p> <p><学生による成果発表の場の創出> ⇒アクティブ・ラーニングの成果の発表について、広く社会に発信できる仕組みを検討のうえ、実施する。</p>	<p><学生による企画・運営事業の創出> ・自治体や産業界などとの協働による学生の事業企画について、本プラットフォームとして自治体や産業界などにアプローチする。</p>			<p>・プラットフォームで学生企画事業の募集検討 ・自治体・産業界との具体的連携の検討</p>		<p>検証⇒改善</p>
		<p><学生による成果発表の場の創出> ・本プラットフォームが支援するアクティブ・ラーニングの成果の発表について、広く社会に発信できる仕組みを具体化する。</p>		<p>自治体との具体的連携の検討</p>	<p>実施⇒内容の見直し</p>	<p>実施</p>	<p>検証⇒改善</p>
8 内なる国際化の推進	<p>・受入留学生が、安心して生活、修学、就職に取り組めるように、環境整備を行う。 ⇒SUCCESS-Osakaの活用も視野に入れながら、留学生への支援策を策定する。</p>	<p><留学生への環境整備> ・留学生の地域社会とのつながりづくりを支援する方策を検討する。 ・留学生と国内学生の交流拡大を視野に入れて、留学生の事業への参加促進案を検討する。</p>		<p>・全大学へ留学生対応にかかる基礎調査実施 ・留学生の環境整備など支援にかかる企画検討</p>	<p>実施⇒内容の見直し</p>	<p>実施</p>	<p>検証⇒改善</p>
9 SD研修の更なる充実	<p>・プラットフォーム形成大学の教職員の能力・資質向上を目指し研修を実施する。 ⇒初任者研修をはじめとした、各種研修・勉強会の継続実施:参加者10%増 ⇒研修プログラムを企画し、毎年実施する。 ⇒勉強会を毎年3回以上開催する。</p>	<p><SD研修の戦略的な実施> ・プラットフォーム形成大学のニーズを踏まえて、初任者研修を充実させるとともに、研修プログラムを開発し、研修を行う。 ・プラットフォーム形成大学間で人材育成に活躍できる職員を育成する研修を企画・実施する。 ・「大学におけるリスクマネジメント」等をテーマとしたプラットフォーム形成大学間での定期的な勉強会を開催する。</p>	<p>各種研修・勉強会の継続実施</p> <p>台湾とのシンポジウム(台北)との協働研修の実施</p>	<p>内容の見直し⇒企画検討</p>			<p>台湾とのシンポジウム(台北)との協働研修の実</p>

平成 30 年度事業計画（年度単位のロードマップ）

- (1) 大学と高校の有機的な接続・連携の強化
 - A 高大連携・接続のフォーラム開催
 - ・高大連携・接続の課題に関するフォーラムを開催する。
 - B プラットフォーム形成大学のオープンキャンパスに関する情報発信の検討
 - ・ホームページを活用した情報発信内容の見直し

- (2) 単位互換プログラムの充実
 - A 単位互換の充実
 - ・単位互換科目を一般教養科目や卒業単位として認められるよう、全プラットフォーム形成大学に働きかける。
 - ・単位互換科目の改善案の検討
 - ・運用方法の見直し

- (3) インターンシップの更なる充実と独自プログラムの開発
 - A 就業体験型インターンシップ
 - ・プラットフォーム形成大学のインターンシップ実施の補完的役割を継続する。
 - ・経済団体（大阪商工会議所など）と連携し、大阪に根差した企業、中小企業やベンチャー企業など特長ある企業等とのインターンシップを拡大する。
 - ・専門員の配置について検討する。
 - B プロジェクト型インターンシップ
 - ・既存プログラムを再編し、大阪市と協働して「大阪のものづくり企業」の魅力発信プロジェクトを実施する。

- (4) グローバル化に対応できる学生や教職員を目指すための機会の提供
 - A 他国・他地域との交流
 - ・「台湾財団法人高等教育国際合作基金会」との交流を継続して実施し、次年度の大阪開催に向けてより効果的なものになるよう検討を進める。
 - ・学生交流の実現に向けてプラットフォーム形成大学のニーズを調査する。

 - B グローバル人材育成事業
 - ・学生がより受講しやすい形態の講座やイベントを継続実施する。
 - ・プラットフォーム形成大学や学生に対する講座の魅力や成果の発信のために、広報媒体の工夫やグローバル人材育成に取り組む大学などに積極的に周知を行う。

- (5) 学生主体の地域連携促進による大阪の活性化
 - A 地方自治体等の受託事業

- ・プラットフォーム形成大学へのメリットを検討し、具体的連携策を検討する。
- B 地域連携事業報告会
 - ・「地域連携 学生フォーラム in 大阪」を継続実施する。
 - ・プラットフォーム形成大学や自治体などの地域連携に関する情報交換会の開催に向けて、その在り方や自治体への大学コンソーシアム大阪のPRの手法などを検討する。
 - ・自治体へ大学に対する地域連携にかかるニーズ調査を行う。
- (6) 学生ボランティア事業の充実
 - A 国際イベントへの学生参加の検討
 - ・学生による通訳やイベントサポートなどのボランティアの派遣に関し、自治体や産業界との具体的連携策の検討を行う。
 - ・プラットフォーム形成大学の国連アカデミック・インパクトへの参加を検討する。
 - B 観光集客にかかる学生参加の検討
 - ・自治体への大学に対するニーズ調査を行う。
- (7) 社会との多様な接点の創出によるアクティブ・ラーニングの充実
 - A 学生による成果発表の場の創出
 - ・本プラットフォームが支援するアクティブ・ラーニングの成果の発表について、自治体との具体的連携を検討する。
- (8) 内なる国際化の推進
 - A 留学生への環境整備
 - ・プラットフォーム形成大学の留学生に対する基礎調査を実施する。
 - ・留学生の環境整備など支援策を企画・検討する。
- (9) SD研修の更なる充実
 - A SD研修の戦略的な実施
 - ・初任者研修をはじめとする研修を実施する。
 - ・プラットフォーム形成大学間で人材育成ができるレベルを備えた職員を育成するための研修を継続的に実施する。
 - ・プラットフォーム形成大学を中心とする教職員の勉強や参加者間の交流の場として、新たに「サロン・ド・大学コンソーシアム大阪（通称：サロン・ド・コンソ）」を企画し、大学における喫緊の課題をテーマに取り上げ開催する。
 - ・台湾とのシンポジウム（台北開催）との協働研修の内容を見直す。

以 上